

削減対策に係る点検表(産業部門)

削減対策に係る点検表(産業部門)の利用について

現状確認

当該事業所において、現状の対策状況を確認する。

自己評価

当該事業所の設備・機器の現状を踏まえ、対策の内容について判断する。
・「自己評価」欄の該当内容に「○」を記入

主な改善の措置

当該点検項目に関する主な改善の措置が例示してある。

基本対策とは

基本的に取り組むべき対策。

- ・一般的な運用面
- ・投資回収年数が概ね3年以内の一般的な対策

目標対策とは

事業者が積極的に取り組む対策

- ・基本対策以外の対策
- ・先進的な対策

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
一般管理事項	推進体制の整備	310100	推進体制の整備 (310101)	<p>指針に基づき、地球温暖化対策推進体制を整備している。 また、同一敷地内において活動している関連事業者に対して、計画書等の作成及び削減対策の実施に際して協力を求め、その事業活動における地球温暖化の対策を着実かつ効果的に推進する。</p>	1	事業所内で地球温暖化対策推進体制を定め、その組織が機能している。	○				
			2		テナントなどの同一敷地内において活動している関連事業者と協働した削減対策を推進している。	○					
			1	事業所の構成員、来所者及びその事業活動に係る他の事業者などに対して、定期的に地球温暖化対策に関する普及啓発、教育活動を行う。	○						
			1	事業所におけるエネルギー使用設備・機器の稼働状況、エネルギーの使用に関する数値等を定期的に記録する管理台帳を整理する。	○						
			1	削減対策を進めるにあたって、削減目標値を設定し、設備改善等の実行計画を策定する。 なお、削減目標の設定には、地球温暖化対策の推進体制が中心となり進行管理を行う。 また、数値目標は、事業所の最高責任者が関与する。	○						
	主要設備等の保全 管理	310200	日常点検・定期 点検 (310201)	<p>技術的かつ経済的に可能な範囲内で事業所全体のみならず設備単位(個別設備ごとに分離することが適当でない場合にあつては、設備群単位又は作業工程単位)によるきめ細かいエネルギー管理を徹底する。</p>	1	管理標準の策定(又は見直し)をしている。	○				
					2	計測・記録のための帳票等の整備している。	○				
					3	保守・点検のための帳票等の整備している。	○				

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の区分番号		小区分	対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
一般管理事項	主要設備等の保全管理	310200	保全計画・管理 (310202)	設備等における性能及び効率の低下を防止するために保全計画を定め、必要な保守及び点検を行う。 また、保守及び点検の記録は、保全履歴として整理、保存等を行い、これを分析して、設備等の劣化状態及び更新時期を把握し、個別設備の効率及び設備全体の総合的な効率の改善に資する削減対策の着実な実施を図る。	1	保全計画の策定している。	○				
					2	保全計画に基づく保守及び点検を実施している。	○				
	3				保全履歴を整理、保存している。	○					
	4				保守及び点検の記録を分析している。	○					
	5				設備の改修・更新等に係る計画の作成や見直しをしている。	○					
		図書管理 (310203)	設備等の現状に係る主要設備に係る機器仕様表(設備・機器名称、定格容量、台数、製造年等)を整備する。	1	1.蒸気配管系統図の整備 2.圧縮空気配管系統図の整備 3.給水配管系統図の整備 4.空調関係図面の整備 5.電気関係図面の整備 6.主要設備に係る機器仕様表の整備など	○					
		計測及び記録の管理		310300	計測器の設置・運用 (310301)	既存の計測機器ではエネルギー管理並びに主要設備等の効率、性能等の把握が不十分な場合には、計画的に計測機器の整備を推進する。	1	計画的な計測機器の整備の推進をしている。	○		
			定期的な計測・記録 (310302)	主要設備等の効率、負荷等の稼働状況を把握するために必要となる項目として、電力、電圧、電流、圧力、風量、流量、熱量、運転時間等を定期的に計測し、記録する。 計測及び記録に当たっては、日報、月報等を作成する等の適切な管理を行い、これを用いて主要設備等の運転状態に関する解析を行い、主要設備等の効率、性能等を常に把握する。	1	主要設備等の効率、負荷等に係る計測及び記録をしている。	○				
					2	1.日報、月報等を作成 2.主要設備等の運転状態に関する解析 3.主要設備等の効率、性能等の算定などを整備している。	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
一般管理事項	計測及び記録の管理	310300	各種データ管理 (310303)	日報、月報などを年次で整理したり、電子データとして保存したりするなど、各種データを管理し、削減対策の実施前や実施後の検証に活用する。また、各種データの推移を前年度同月や同日、週比較などを行い、事業所におけるエネルギーの特性を把握する。	1	各種データの整理、保存している。	○				
			エネルギー使用量の 管理	310400	エネルギーフローの管理 (310401)	エネルギーの発生、搬送、消費に至るまでの流れ及びその流れに対応する生産工程等の操業状況を定量的に一定の頻度で把握し、事業所のエネルギー使用状況を管理する。	1	エネルギーフローを作成している。	○		
	エネルギー使用 分析 (310402)	エネルギーの使用量について、工程別又は設備別に、時間、日、週、月、四半期、年単位等のグラフ等を用いて過去の実績との比較及び分析を行う。			1	工程別又は設備別のエネルギー使用量に係るデータを整理している。	○				
					2	エネルギー使用量に関する過去の実績との比較及び分析をおこなっている。					
	エネルギー消費 原単位の算出・ 分析 (310403)	エネルギー使用量の管理指標として、全工場又は製品別、工程別等のエネルギー消費原単位(出荷額、生産数量等当たりのエネルギー使用量をいう。)を算出する。 エネルギー消費原単位について、月、四半期、年単位等のグラフ等を用いて過去の実績との比較及び分析を行う。			1	全工場又は製品別、工程別等のエネルギー消費原単位の算出している。	○				
			2	月、四半期、年単位等のエネルギー消費原単位に係るデータの過去の実績との比較及び分析をしている。	○						
生産工程のエネルギー管理	310500	生産工程のエネルギー管理 (310501)	生産工程の操業状況に応じたエネルギーの使用状況の管理及び分析をし、操業条件の変更、定常負荷の低減等の生産工程の改善を推進する。	1	生産工程の操業状況に応じたエネルギーの使用状況の管理及び分析をしている。	○					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	燃料の燃焼の合理化	320100	空気比の管理 (320101)	燃料の燃焼を行う設備及び使用する燃料の種類に応じて、空気比についての管理標準を設定することが重要である。	1	燃焼設備の空気比管理に係る規程の作成(または見直し)をしているか	○				
				燃焼設備において、燃料を完全燃焼させるためには理論空気量に対し少し多めの空気で燃焼させる必要があるが、あまり過剰な空気で燃焼させると排ガス量が増加し、必然的に排ガス熱損失が増加する。 燃焼設備の空気比は、工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(平成21年3月31日 経済産業省告示第66号)に掲げる値を基準として、最良の燃焼効率が得られるように、可能な限り小さくする。	2	燃料、空気流量の手動調整による空気比の改善(低減)しているか。	○				
				火災の目視管理(火炎及び煙突排煙の監視)から、早期に燃焼異常を発見・処置することにより、良好な燃焼状態を維持する。	4	火災の目視管理を実施しているか	○				
				複数の燃焼設備を使用するときは、燃焼設備全体として熱効率が高くなるように管理標準を設定する。 燃焼設備は、設計効率が高くても、低負荷の運用状態によっては効率が著しく低下する場合がある。 各燃焼設備の負荷に応じた熱効率特性を考慮し、熱効率の高い燃焼負荷の範囲内で運転を行うよう調整する。	1	燃焼設備の効率管理に係る規程の作成(見直し)をしているか	○				
				2	1.運転台数の調整(負荷の集約化) 2.適正な負荷の配分 をしているか	○					
			燃料の管理 (320103)	1	燃料の性状に応じた粒度、水分、粘度等の適正に管理しているか	○					

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	燃料の燃焼の合理化	320100	燃焼設備の安全管理 (320104) 良好な状態を維持するため燃焼設備やバーナノズルの定期的な保守及び点検の規程を作成し、保守及び点検する。	1	燃焼設備を良好な状態を維持するため、定期的な保守及び点検を行うための規程を作成しているか。	○					
				2	燃焼設備の定期的な保守及び点検を実施しているか。	○					
				3	バーナノズルの定期的な点検、清掃及び整備を行うための規程があるか。	○					
				4	バーナーノズルの定期的な点検、清掃及び整備を実施しているか。	○					
				ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等に係るその他の削減対策 (329999) オン・オフ制御バーナ、三位置制御バーナを採用しているボイラーでは、低負荷時にオン・オフ回数増大による空気比の増加と点火前炉内パージなどのため排ガス損失が増加する。 常用負荷の低いボイラーで、過大容量のバーナノズルが取り付けられている場合には、負荷に適した容量のバーナノズルに交換することにより、排ガス損失を低減できる。 また、リジェネレイティブバーナー等熱交換器と一体となったバーナーを採用することにより、熱効率を向上できることがある。	1	負荷に適した容量のバーナになっているか(又は変更しているか。)		○			
					2	リジェネレイティブバーナーの採用。		○			

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の区分番号		小区分	対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	320200	熱媒体の温度、圧力及び量の管理 (320201)	<p>蒸気等の熱媒体を用いる加熱設備、冷却設備、乾燥設備、熱交換器等は、加熱及び冷却並びに伝熱(以下「加熱等」という。)に必要とされる熱媒体の温度、圧力及び量並びに供給される熱媒体の温度、圧力及び量について適正な値を設定し、操業状況の変化等に応じて、見直すことにより、熱媒体による熱量の過剰な供給をなくしている。</p>	1	1.加熱等に必要とされる熱媒体の温度、圧力及び量の管理に係る規程 2.供給される熱媒体の温度、圧力及び量に係る規程を作成し、見直しもしているか。	○				
				<p>ボイラーの蒸気圧力を下げると、飽和温度の低下によって燃焼ガスとの温度差が大きくなり、廃ガス温度が下がるのでボイラー効率が向上する。一方、蒸気圧力を下げ過ぎると蒸気比容積の増大により、蒸気ドラムからのキャリーオーバーを起こすだけでなく送気系統の圧力損失を増加させるなどの弊害がでる可能性がある。これらを総合的に検討した上で、蒸気の設定圧力を許容範囲内で極力下げて運転することにより、燃料の節約を行う。</p>	2	蒸気圧力の見直し(低減)しているか。	○				
			加熱、熱処理等工業炉の効率管理 (320202)	<p>加熱、熱処理等を行う工業炉は、設備の構造、被加熱物の特性、加熱、熱処理等の前後の工程等に応じて、熱効率を向上させるように管理標準を設定し、ヒートパターン(被加熱物の温度の時間の経過に対応した変化の様態をいう。)を改善する。</p>	1	1.加熱、熱処理等工業炉の効率管理に係る規程の作成 2.ヒートパターンの変更を実施しているか。	○				
					2	3.設備改修又は工程変更等の伴うヒートパターンの変更		○			
			加熱等設備の負荷管理 (320203)	<p>加熱等を行う設備は、被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置について管理標準を設定し、操業状況の変化等に応じて被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置を見直すことにより、過大負荷及び過小負荷を避け、可能な限り設備の定格容量付近での操業を継続できるように調整を行う。</p>	1	加熱等設備の負荷管理に係る規程を作成しているか。 被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置を適正に見直しているか。	○				
					2	設備改修又は工程変更等に伴う被加熱物又は被冷却物の量及び炉内配置を適正に見直しているか。		○			

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の区分番号		小区分	対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	320200	加熱等設備の効率管理 (320204)	複数の加熱等を行う設備を使用するときは、設備全体としての熱効率が高くなるように管理標準を設定し、負荷に応じた熱効率の特性を考慮して、複数設備間の稼働調整を行う。	1	加熱等設備の効率管理に係る規程の作成又は見直しをしているか。	○				
					2	1.各設備の負荷の適正化 2.高効率大容量設備への負荷の集約化 3.高効率大容量設備の導入及び負荷の集約化などを実施しているか。	○				
			ボイラーの負荷管理及び効率管理 (320205)	複数のボイラーを使用する場合には、蒸気需要に応じて、ボイラー設備全体としての熱効率が高くなるよう、それぞれのボイラーの負荷を調整する。	1	1.各ボイラーの負荷の適正化 2.高効率設備への負荷の集約化を実施している。	○				
					2	3.台数制御装置の導入		○			
					3	1.ボイラー操業側と蒸気使用側との緊密な連絡による負荷の平準化を実施しているか。	○				
			ボイラー負荷の急激な変動は、ボイラー圧力・水位・燃焼の各系に外乱を与え、ボイラー効率を低下させる。 ボイラーの負荷を平準化し、急激な負荷変動を低減するため、供給側(生産工程等に対して蒸気、冷水等を供給する設備等の管理者をいう。)と使用側(供給された蒸気、冷水等を使用する生産工程等における設備等の管理者をいう。)とが蒸気の圧力及び量に関して緊密な連携を取っている。	4	2.アキュムレーターの設置 3.台数制御装置の導入		○				
				5	台数制御を採用している場合には、設備全体としての熱効率が高くなるように、各ボイラーの特性及び蒸気需要側の利用パターンを把握して運転条件を管理する。	○					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	320200	加熱工程のスケジュール管理 (320206)	加熱を反復して行う工程においては、工程間のスケジュールを調整することにより、工程間の待ち時間を短縮する。	1	1.加熱工程のスケジュール管理に係る規程の作成・変更 2.工程間のスケジュールの見直し(変更)を実施しているか。	○				
				加熱等を行う設備で断続的な運転ができるものについては、運転を集約化する。	2	1加熱等設備の運転管理に係る規程の作成・変更 2分散している加熱等の作業の集約化を実施しているか。	○				
			ボイラーの給水及びブロー管理 (320207)	ボイラーへの給水は、伝熱管へのスケールの付着及びスラッジ等の沈澱を防止し、ボイラーの効率を維持するため、日本工業規格B8223ボイラーの給水及びボイラー水の水质に規定するところ(これに準ずる規格を含む。)により水质管理を行っている。	1	給水やボイラー水の水质管理に関する規程の作成・変更しているか。	○				
				給水やボイラー水の水质分析を定期的に行っている。	2	定期的に水质管理を実施しているか。	○				
				ボイラー給水の中の硬度成分等の濃縮を防ぐため、ボイラー水の一部を外部に排出(ブロー)することが必要であるが、ブロー量が過大であると熱損失が増大する。 ボイラーのブローは、定期的に給水及びボイラー水の水质分析を行い、基準水质を維持しつつ可能な限りブロー量を低減する。	3	ブロー量の低減しているか。	○				
				処理される原水が季節的な変動により水质が変化するときは、給水処理装置の再生間隔を適切に調整する。	4	給水処理装置の再生間隔を調整しているか。	○				
			蒸気供給の管理 (320208)	蒸気を用いて加熱等を行う設備については、加熱設備内部及び蒸気管での放熱を防止するため、不要時に蒸気供給バルブを閉止しているか。	1	不要時には蒸気供給バルブを閉止しているか。	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	320200	蒸気乾き度の管理 (320209)	蒸気の流出を抑えながらドレンの分離排出を良好な状態に保つため、蒸気供給配管にはスチームドレンセパレーター及びスチームトラップを設置し、蒸気加熱装置にはスチームトラップ及び必要に応じてドレンサイホンを設置し、それらを良好な作動状態に維持管理する。	1	1.蒸気供給配管のスチームドレンセパレーター及びスチームトラップの定期的な点検、清掃及び整備 2.蒸気加熱装置のスチームトラップ及びドレンサイホンの定期的な点検、清掃及び整備を実施しているか。	○				
			加熱等を行う設備の保全管理 (320210)	ボイラー、工業炉、熱交換器等の伝熱面その他の伝熱に係る部分については、定期的に保守及び点検を行うための規程を作成、実施する。また、定期的にはいじん、スケールその他の付着物を除去し、伝熱性能の低下を防止している。	1	加熱等設備保全管理に係る規程の作成(見直し)をしているか。	○				
					2	加熱等設備の定期的な保守及び点検を実施しているか。	○				
					3	ばいじん、スケールその他の付着物の除去を実施しているか。	○				
			その他、加熱等に係る管理 (320211)	その他の加熱等に係る管理は、被加熱物及び被冷却物の温度、加熱等に用いられる蒸気等の熱媒体の温度、圧力及び流量その他の加熱等に係る事項について設備の運用に係る要領を作成し、実施する。	1	加熱等設備の運用に係る要領の作成(見直し)をしているか。	○				
					乾燥装置において、製品水分の許容範囲以上に乾燥してしまうと過剰なエネルギーを消費することになる。センサー、コントローラ等を利用して精密に水分をコントロールすることにより、操業時の消費エネルギーを節減できる。	2	1.乾燥装置の運転管理(水分コントロール)の変更(見直し)	○			
						3	2.乾燥装置のセンサー等の設置及び水分コントロールの実施		○		

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等に係るその他の削減対策 (329999)	蒸気供給配管にスチームドレンセパレーター及びスチームトラップを、蒸気加熱装置にスチームトラップ及び必要に応じてドレンサイホンを設置し、蒸気の乾き度を適度に高いレベルに維持することにより、効率の良い蒸気加熱を行うことができる。	1	1.蒸気供給配管にスチームドレンセパレーター及びスチームトラップの設置 2.蒸気加熱装置にスチームトラップ及び必要に応じてドレンサイホンの設置		○			
				ボイラー、冷凍機等の熱利用設備において、小型化分散配置することにより、エネルギーの使用の合理化が図れることがある。	2	熱利用設備の更新(小型化・分散配置)		○			
				ボイラー、工業炉、蒸気・温水等の熱媒体を用いる加熱設備及び乾燥設備等は、使用する温度レベル等を勘案し熱効率の高い設備を採用する。また、高いエネルギー変換効率、利用効率を得られるよう、所要能力に見合った容量のものを採用する。	3	加熱設備等の更新(高効率、適正設備容量への変更)		○			
				プロセスの中で、高圧蒸気ラインと低圧蒸気ラインがある場合、低圧蒸気ラインは減圧弁を設置し蒸気圧力を下げて使用している場合が一般的である。この場合、減圧弁の代わりに圧力差利用タービンを設置し、動力源として利用することによりエネルギーを節減できる。	4	圧力差利用による動力回収		○			
	放射・伝熱等による熱の損失の防止	320300	熱利用設備に係る断熱の保安全管理 (320301)	熱媒体及びプロセス流体の輸送を行う配管その他の設備並びに加熱等を行う設備(以下「熱利用設備」という。)は、断熱工事等熱の損失の防止のために講じた措置について、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	熱利用設備の断熱の保安全管理に係る規程の作成(見直し)しているか。	○				
				熱利用設備の定期的な保守及び点検については、基準に基づき実施している。	2	熱利用設備を定期的に保守及び点検しているか。	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	放射・伝熱等による熱の損失の防止	320300		熱の輸送管等において、定期的な保守及び点検を行い、管等の表面からの放熱熱損失、漏えいによる損失、欠損箇所からの雨水侵入等による損失、固体顕熱の放散による損失等を防止する。	3	1.配管の点検及び保全、保温部分の保全の実施 2.配管等の保温・保冷の強化	○				
					4	3.配管経路の合理化(不要配管、重複配管の撤去) 4.トラップ等漏れ原因箇所の減少(トラップの選定、設置位置の適正化) 5.被加熱固体の移送設備の断熱及びカバーの設置		○			
					1	熱使用設備等の点検及び保全の実施	○				
					2	2.設備表面積の減少 3.熱発生設備等表面の断熱の強化 4.設備内圧の適正保持		○			
					3	貯蔵設備の点検及び保全の実施	○				
			4	貯蔵設備表面の保温・保冷の強化		○					
			1	1. スチームトラップの点検及び保全の実施	○						
			2	2. スチームトラップの定期的な保守及び点検と清掃及び整備を実施しているか。	○						
			3	3. スチームトラップの定期的な保守及び点検を行う規程の作成(見直し)しているか。	○						
			4	4. スチームトラップの定期的な保守及び点検を行う規程を設け、実施する。	○						
		スチームトラップの 保安全管理 (320302)		スチームトラップは、その作動の不良等による蒸気の漏えい及び閉そくを防止するため、定期的に保守及び点検を行う規程を設け、実施する。	1	スチームトラップの保安全管理に係る規程の作成(見直し)しているか。	○				
				2	スチームトラップの定期的な保守及び点検と清掃及び整備を実施しているか。	○					

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	放射・伝熱等による熱の損失の防止	320300	熱媒体等の漏えいに係る保全管理 (320303)	熱利用設備について、定期的な保守及び点検を行い、開口部等からの熱媒体の漏えい及び空気の流出入による熱の損失を防止する。	1	1.熱利用設備の定期的な保守及び点検の実施 2.熱利用設備開口部等の整備の実施	○				
				蒸気配管は、定期的な保守及び点検を行い、フランジ部、バルブのグランド部等からの蒸気の漏えいを防止する。	2	3.開口部の縮小又は密閉 4.二重扉の取付 5.熱利用設備の出入口にエアーカーテン等の設置		○			
				蒸気配管系、継ぎ手、バルブ等の蒸気配管系の断熱性能が、日本工業規格A9501保温保冷工事施工標準及びこれに準じる規格に規定するところにより施工される断熱性能を基準として不十分と認められる場合には、断熱を強化することにより、放射熱を低減することができる。	3	1.蒸気配管の定期的な保守及び点検の実施 2.フランジ部、バルブのグランド部等の蒸気の漏えいの修理	○				
			蒸気配管系の断熱強化 (320304)	蒸気配管系、継ぎ手、バルブ等の蒸気配管系の断熱性能が、日本工業規格A9501保温保冷工事施工標準及びこれに準じる規格に規定するところにより施工される断熱性能を基準として不十分と認められる場合には、断熱を強化することにより、放射熱を低減することができる。	1	蒸気配管等の断熱強化	○				
			ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等に係るその他の削減対策 (329999)	既存の工業炉において施工上可能な場合には、工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(平成21年3月31日 経済産業省告示第66号)に掲げる炉壁外面温度の値を基準として断熱の措置を行うことにより、放射・伝熱等による熱損失を防止する。	1	工業炉表面の断熱強化		○			
				工業炉において、炉内壁面に耐熱塗布剤を塗布する等の措置を施すことにより、放射伝熱性能を改善することができる。	2	工業炉の炉壁面等の性状及び形状の改善による放射伝熱性能を向上している		○			
				加熱等を行う設備において、炉内ガスの循環を高めるような、設備を設置あるいは方策を実施することにより、対流伝熱性能を改善することができる。	3	1.加熱設備の伝熱面の性状及び形状の改善による対流伝熱性能の向上		○			

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	放射・伝熱等による熱の損失の防止	320300		加熱等を行う設備の熱交換に係る部分において、高熱伝導性材料を用いる。あるいは薄くても強度のある材料を用いて熱伝導に対する抵抗を低減することにより、熱透過率を向上することができる。	4	1.加熱設備の熱交換部分の熱伝導率の高い材料の採用		○			
				工業炉において被加熱物を処理する場合には、被加熱物のほか、炉体、炉を支持する架台、材料等を支持する治具、材料等被加熱物を運搬する台車などに加熱の過程で相当量の熱量が蓄熱され、それらの熱は操業の各サイクルごとに放熱されて損失になる。 炉体、架台、治具、台車等は、軽量化したり比熱のより小さなものを用いるなどにより、熱容量を低減できる。	5	1.炉体、架台、治具、台車等の軽量化 2.比熱のより小さなものの採用		○			
				熱利用設備の回転部分とそれを支持する部分の継ぎ目及び配管の継ぎ手等には、シール等の熱媒体の漏えいを防止する措置を行っている。	6	1.熱利用設備の回転部分、継ぎ手部分等のシール等の実施		○			
	排熱の回収	320400	排ガスの廃熱回収の管理 (320401)	排ガスの廃熱の回収利用は、排ガスを排出する設備等に応じ、廃ガスの温度又は廃熱回収率について管理標準を設定する。	1	1.排ガスの廃熱回収の管理に係る規程の作成(見直し)をしているか。		○			
				ボイラーは、工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(平成21年3月31日 経済産業省告示第66号)に掲げる廃ガス温度の値を基準として、可能な限り廃ガスからの廃熱を回収することにより、廃ガス温度を低下させている。	2	1.ボイラーの廃ガス温度の管理		○			
					3	2.ボイラー用給水予熱器の設置 3.ボイラー用空気予熱器の設置		○			
			工業炉は、工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(平成21年3月31日 経済産業省告示第66号)に掲げる廃熱回収率の値を基準として、可能な限り排ガスからの廃熱を回収することにより、廃熱回収率を高めている。	4	1.工業炉の廃ガス温度の管理		○				
				5	2.工業炉に空気予熱器の設置		○				

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の区分番号		小区分	対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	排熱の回収	320400	蒸気ドレンの廃熱回収の管理 (320402)	蒸気ドレンの廃熱の回収利用は、廃熱回収を行う蒸気ドレンの温度、量及び性状の範囲について管理標準を設定する。	1	1.蒸気ドレンの廃熱回収の管理に係る規程の作成(見直し)しているか。	○				
				蒸気ドレンは、廃熱の回収を行う温度、量及び性状の範囲を把握し、可能な限り廃熱を回収及び利用している。	2	1.蒸気ドレンの廃熱回収状況の管理 2.蒸気ドレンをボイラー給水等に利用	○				
					3	3.蒸気ドレンの熱交換器等による廃熱回収		○			
			排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱等回収の管理 (320403)	加熱された固体又は流体が有する顕熱、潜熱、圧力、可燃性成分等の回収利用は、廃熱等の回収を行う範囲について管理標準を設定している。	1	排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱等回収の管理に係る規程の作成(見直し)しているか。	○				
				加熱された固体又は流体が有する顕熱、潜熱、圧力、可燃性成分等は、廃熱等の回収を行う範囲を把握し、可能な限り廃熱等を回収利用している。	2	1.排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱等回収状況の管理	○				
					3	2.ボイラーブロー水の熱交換器による廃熱回収 3.排ガス及び蒸気ドレン以外の廃熱等回収利用		○			
			廃熱回収設備の保安全管理 (320404)	廃熱回収設備(廃熱の回収利用のための熱交換器、廃熱ボイラー等をいう。)は、廃熱回収及び廃熱利用の効率を維持するため、定期的に保守及び点検を行う規程を設け、実施する。	1	1.廃熱回収設備の保安全管理に係る規程の作成(見直し)をしているか。 2.廃熱回収設備の定期的な保守及び点検の実施しているか。	○				
				廃熱回収設備について、定期的な保守及び点検を行い、伝熱面等の汚れを除去し、又は熱媒体の漏えい部分の補修等を行っている。	2	1.廃熱回収設備の整備を実施しているか。	○				

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等	排熱の回収	320400	蒸気ドレンの回収利用 (320405)	生産工程等における蒸気ドレンにおいて、未回収又は回収量が少ない状況であって、回収利用に当たって水質上の問題がないと認められる場合には、ボイラー給水等にドレンの回収利用を行うことにより、投入エネルギーを節減できる。	1	1.蒸気ドレンの回収によるボイラー給水等に利用	○				
			ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等に係るその他の削減対策 (329999)	廃熱を排出する設備から廃熱回収設備に廃熱を輸送する煙道、管等において、空気等の混入や断熱の劣化により廃熱の温度が低下しないように、空気等の侵入の防止、断熱の強化その他の廃熱の温度を高く維持するための措置を行う。	1	1.空気等の侵入の防止 2.煙道等の断熱の強化		○			
				廃熱回収設備について、廃熱回収率を高めるように伝熱面の性状及び形状の改善、伝熱面積の増加等を行っている。	2	1.伝熱面の性状及び形状の改善 2.伝熱面積の増加		○			
				廃熱等を利用した被加熱材の水分の事前除去、予熱などの事前処理を行うことにより、加熱設備の昇温時間短縮や燃料の節約、あるいは加熱設備の小型化と放熱減少などの効果が得られることがある。	3	1.被加熱材の予備処理の実施		○			
				その他、ボイラー、工業炉、蒸気系統、熱交換器等について、温室効果ガスの排出量を削減するために必要な措置を行っている。	4	その他					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容									
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価					
									して いる ある	検討中	して いない ない			
空気調和設備、 換気設備	加熱及び冷却並びに 伝熱の合理化	330200	空気調和の管理 (330201)	<p>空気調和を施す区画を限定し、当該区画ごとの建物の構造、設備の配置、作業の内容等を把握し、冷暖房温度、換気回数、湿度、運転時間等を適切に設定し管理する。</p>	1	1.空気調和設備に係る規程の作成・変更 2.空調運転時間の設定・変更(短縮) 3.朝の立上げ時刻、夕方の停止時刻等の設定・変更(予冷・予熱時間の最小化) 4.冷暖房期間の設定・変更(短縮) 5.非使用室・非使用部分の空調停止	○							
				冷暖房温度について、政府等の推奨する設定温度を勘案し、設定する。	2	冷暖房設定温度の設定・変更	○							
				工場、事務所とも、建物内部での発熱が大きく、中間期(春季・秋季)・冬季にも冷房を要する場合が多い。 外気温度が十分に低ければ外気による冷房が可能である。	3	中間期・冬季における外気冷房の実施	○							
					4	ダクト・ダンパ等の改修及び中間期・冬季における外気冷房制御の導入		○						
				空調では室内の空気清浄度を確保するために外気が導入される。 夏季、冬季では、取り入れた外気が冷・暖房負荷となるので、建築物環境衛生管理基準(室内CO2濃度1,000ppm以下等)が確保できる範囲で取り入れ外気量の低減を行う。	5	1.外気導入ダンパの開度調整 2.空調起動時(予冷、予熱時)の外気導入ダンパ閉止	○							
					6	1.CO2センサ等による外気導入量制御の導入 2.最適起動制御の導入(予冷・予熱時間の短縮)		○						
				中間期(春季、秋季)、冬季に冷房が必要な場合に、冷凍機で冷水を造る代わりに冷却塔からの冷却水を直接空調機に供給することにより、冷凍機動力を低減する。	7	フリークーリングシステムの適正運用	○							
					8	フリークーリングシステムの採用		○						
				送風機又はポンプについて変流量システムを採用している場合には、負荷の変動に応じた最適な運転になるように流量、圧力等の設定条件を適切に調整する。	1	負荷の変動に応じた流量、圧力等の運転条件の設定	○							
				空気調和設備の 効率管理 (330202)				空調機器等は負荷が定格より小さく(部分負荷)になるほど効率が悪くなる傾向がある。 冷凍機等の熱源が複数台設置されている場合には、各設備の性能を把握した上で、負荷の変動に応じて台数制御を行い、総合的に高い効率で運転する。	2	数熱源における運転機器・台数を適正に選択しているか	○			
								3	熱源機器台数・容量の最適化(更新)及び運転制御システムの導入		○			

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の区分番号			対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
空気調和設備、換気設備	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	330200		<p>全熱交換器は、空調の排気と給気の顕熱及び潜熱を同時に交換することにより、外気負荷を軽減できる。</p> <p>全熱交換器は、外気と室内空気のエンタルピー差が大きい夏季及び冬季には全熱回収効果が大きい、温湿度差が少ない中間期には効果が小さく、ロータの回転動力が無駄になる。また、外気冷房を行っている場合は排気によって給気温度を高めるので冷房効果が低下する。このため、中間期にはバイパス回路を設けて、全熱交換器の機能を停止させている。</p>	4	全熱交換器の中間期の適正管理	○				
				5	全熱交換器の導入		○				
				6	蓄熱負荷に応じた蓄熱槽容量の調節	○					
				7	冷却塔ファンの運転台数の調整	○					
				8	1.冷却塔ファンの台数制御装置の導入 2.冷却塔ファンの回転数制御の導入		○				
				クリーンルームの空気調和管理(330203)	<p>クリーンルームの環境条件の許容範囲内において、夜間や休日などの非作業時間の空調ファンは低風量運転等を行い、ファン動力の低減を行う。</p>	1	非作業時間の低風量運転の実施	○			
				2	空調ファンの回転数制御装置の導入及び非作業時間の低風量運転の実施		○				
				冷凍機の効率管理(330204)	<p>冷凍機の効率的な性能を表す指標は、単位入力エネルギー当たりの冷凍効果であり、成績係数COPで表す。</p> <p>冷温水熱量の直接計測又は間接算定(ポンプ特性から流量を測定する等)により、熱源機器の成績係数COPを定期的に把握して、常に高い効率の維持を図る。</p>	1	定期的な成績係数(COP)の算出	○			
			2	冷凍機の冷水入口温度及び冷水出口温度に管理値を設け、適正な運転管理を行い、常に高い効率の運転状態を維持する。		○					
			3	<p>冷凍機は冷水出口温度を高くすることにより効率が向上する。</p> <p>冷房負荷が低い中間期(春季、秋季)では、冷凍機の設備性能及び空気調和設備全体の総合的な効率向上等を考慮した上で、夏季の定格負荷時の冷水出口温度より高い値で運転する。</p>		○					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
空気調和設備、 換気設備	加熱及び冷却並びに 伝熱の合理化	330200		冷凍機は冷却水入口温度を低くすることにより効率が向上する。 空気調和設備全体の総合的な効率の向上等を考慮した上で、冷凍機が許容する冷却水入口温度まで下げて運転する。	4	冷却水入口温度の適正管理	○				
			冷却水の管理 (330205)	冷却水は、スケール、スライム付着等による冷却塔、熱交換器等の効率の低下を防止するため、適正な水質管理を行い、適度なブローや化学薬品処理などを行っている。	1	冷却水水質基準の設定	○				
				冷却水の水質検査については、次の頻度で実施している。	2	定期的な水質検査の実施	○				
			ブラインド、カー テン等の管理 (330206)	強い日射は夏季冷房負荷を大きくする。 冷房時において、窓からの強い日射を遮蔽することにより、侵入熱量を低減し冷房負荷を軽減している。	3	1.ブラインドやカーテンの適正利用 2.ブラインドの設置 3.カーテンの取付	○				
					4	4.日照調整フィルムの貼り付け		○			
				ブラインドやカーテンは、空調エネルギー及び照明エネルギーの低減のため、適正な運用管理を行う。以下に注意点を示す。 ①冷房時、直射日光射入時は閉止。 ②暖房時、直射日光射入時は作業に支障なければ開放、温感、視感上支障があれば直射光を遮る程度に閉止。 ③直射がないときは必ず開放。 ④冬季終業時は全閉。 ⑤夏季、東側は終業時に全閉。	5	ブラインドの運用管理規程等の設定・変更	○				
				工場において、特に冷暖房時、機材搬入の際に大型扉の長時間開放による隙間風侵入や冷温風流出などを防止することにより、空調エネルギーの損失を低減する。	6	大型扉等の開放時間の調整(短縮)	○				
	7	1.前室の設置及び扉の二重化 2.開口部に垂れ幕の設置 3.開口部にエアカーテンの設置			○						

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
空気調和設備、 換気設備	加熱及び冷却並びに 伝熱の合理化	330200		冷却塔は、充填材の目詰まりにより通風抵抗が増大しないように充填材の高圧洗浄や薬品洗浄を行う。また、定期的に清掃を行い、散水孔・ノズル・配管ストレーナなどの詰まりを防止する。	7	1.冷却塔の充填材の整備・洗浄 2.冷却塔散水孔等の清掃	○				
				蓄熱槽は、定期的に水の入れ替えを行い、同時に断熱・防水等の検査を行う。	8	蓄熱槽の水の入れ替え及び検査	○				
			空気調和設備の 自動制御装置の 保全管理 (330209)	空気調和設備の自動制御装置は、良好な状態を維持するため、定期的に保守及び点検を行うための規程を設け、実施する。	1	空気調和設備の自動制御装置の保全管理に係る規程の作成(見直し)をしているか。	○				
					2	自動制御装置の定期的な保守及び点検の実施	○				
			熱搬送ポンプ等 における最適流 量調整のための 装置等の導入 (330251)	熱搬送ポンプ及び冷却水ポンプにおいて、流量の調整により搬送動力の低減が見込める場合には、台数制御、回転数制御等により、負荷に応じた最適な流量に調整している。	1	1.羽根車の外径加工 2.羽根車の交換 3.台数制御切替点の設定値の変更 4.台数制御装置の導入 5.回転数制御の設定変更 6.回転数制御装置の導入	○				
					2	1.使用水量に合わせた台数分割及び台数制御の導入 2.小容量ポンプへの取り替え		○			
			空気調和設備に おける最適風量 調整のための装 置等の導入 (3302052)	空気調和設備の送排風機において、風量の調整により搬送動力の低減が見込める場合には、回転数制御等により、負荷に応じた最適な風量に調整する。	1	1.羽根車外径の切下げ 2.小容量羽根車への取替え 3.Vプーリの取替え 4.台数制御切替点の設定値の変更 5.台数制御装置の導入 6.回転数制御の設定変更 7.回転数制御装置の導入	○				
			空気調和設備、 換気設備に係る その他の削減対 策 (330299)	低層建物では特に屋根からの熱負荷が大きい。屋根の断熱性を向上させることにより、侵入熱量を低減し冷房負荷を軽減できる。	1	1.断熱塗料の塗布 2.屋根裏空間の換気設備の設置		○			
				外ガラスと内ガラスの間に空気層を設けた2層又は3層ガラスを使用した場合、熱貫流率が単板ガラスに比べて1/2程度と小さくなり、侵入熱量を低減できる。	2	複層ガラスに改造		○			

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
空気調和設備、 換気設備	加熱及び冷却並びに 伝熱の合理化	330200		屋根に受ける日射受熱を水の顕熱及び潜熱で吸収して冷房負荷を減らすことができる。	3	屋上散水装置の設置		○			
				蓄熱システム(氷蓄熱等)を導入した場合、夜間電力を有効利用することができる。冷房時期であれば屋間に比較し外気温度の低い夜間に冷水を製造するため、蓄熱のための損失を考慮しても効率良く冷房エネルギーを製造できることがある。	4	蓄熱システムの導入		○			
				河川水、下水、地下水、排水熱等の未利用エネルギーを有効利用することにより、空調エネルギーを低減できる。	5	未利用エネルギーを利用した熱回収ヒートポンプシステムの採用		○			
				熱源設備等の空気調和設備について、設置後の使用年数を管理している。 古い機械を新型機に更新した場合、効率の向上により空調エネルギーが低減できる可能性が大きい。	6	空気調和設備の更新(効率の向上)		○			
				機械加工の工場では、ミストが発生し、これの除去を目的として換気が行われている。ミスト発生量の低減、ミスト回収の強化、局所集じん強化などにより、換気負荷を低減している。なお、夏季においては、換気量の低減により、空調エネルギーが削減できる。	7	1.ミストの発生・飛散抑制を目的とした設備改善 2.局所集じんの強化		○			
				工場の場合、長大な壁面と広い屋根面積を有することが多く、太陽熱を有効利用できる条件が整っている。 太陽熱を利用して、空調用取り入れ外気の加熱、低温水集熱によるヒートポンプ暖房などを行うことにより、空調エネルギーを低減できる。	8	1.太陽熱利用空調の導入 2.太陽熱利用冷暖房システムの導入 3.太陽熱給湯システムの導入		○			
			空気調和設備、 換気設備に係る その他の削減対策 (330299)		空調和設備、換気設備に係るその他の削減対策	9	その他				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の区分番号			対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
発電専用設備、コージェネレーション設備 換気設備	熱の動力等への変換の合理化に関する措置	340500	発電専用設備の効率管理 (340501)	ガスタービン、蒸気タービン等専ら発電のみに供される設備(以下「発電専用設備」という。)にあつては、高効率運転を維持できるように運転管理する。	1	発電専用設備の運転管理等に係る規程の作成・変更	○				
				複数の発電専用設備の並列運転に際しては、個々の機器の特性を考慮の上、負荷の増減に応じて適切な配分を行い、総合的な効率の向上を図る。	2	発電専用設備に係る運転管理等に係る規程の作成・変更	○				
			発電専用設備の保安全管理 (340502)	発電専用設備については熱効率を高い状態に維持するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	発電専用設備保安全管理に係る規程の作成・変更	○				
				発電専用設備の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	2	発電専用設備の定期的な保守及び点検の実施	○				
			コージェネレーション設備の効率管理 (340503)	コージェネレーション設備に使用される複数のボイラー、ガスタービン、蒸気タービン、ガスタービン、ディーゼルエンジン等は、発生する熱及び電気が十分に利用されるよう、負荷の増減に応じて適切に運転し、総合効率を高める。	1	コージェネレーション設備の運転管理に係る規程の作成・変更	○				
				コージェネレーション設備の発電電力量及び排熱利用量を把握して、常に高い総合効率の維持を図る。	2	コージェネレーション設備の総合効率の管理	○				
			コージェネレーション設備の保安全管理 (340504)	コージェネレーション設備については熱効率を高い状態に維持するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	コージェネレーション設備保安全管理に係る規程の作成・変更	○				
				コージェネレーション設備の定期的な保守及び点検については、次の頻度で実施する。	2	コージェネレーション設備の定期的な保守及び点検の実施	○				
			発電専用設備、コージェネレーション設備に係るその他の削減対策 (340599)	その他、発電専用設備、コージェネレーション設備について、温室効果ガスの排出量を削減するために必要な措置を行うる。	1	その他	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
受変電設備、配電設備	抵抗等による電気の損失の防止	350600	変圧器の需要率管理 (350601)	配電設備の管理は、電気使用設備の種類・稼働状態・容量に応じて、配電設備毎の電圧・負荷率及び変圧器の需要率の範囲を設定し管理する。また、計測・記録を行い、適正な運転がされていることを確認する。	1	1.管理基準値を設定しているか 2.計測・記録を実施しているか	○				
				個々の変圧器の特性により最高効率点は異なるが、最高効率点の負荷に対し低負荷又は高負荷のときには効率が低下する。変圧器の需要率を適正に管理し、高効率運転を維持する。	2	1.変圧器の稼働台数を調整しているか。 2.適正な負荷配分になっているか	○				
				負荷設備の減少により、変圧器が低負荷で運用されることがある。電気使用設備の種類・稼働状態・容量の変化に応じて、変圧器の効率が高くなるよう運転している。	3	1.長期の不使用时は変圧器を停止しているか 2.軽負荷変圧器の負荷を統合しているか 3.季節別等の負荷変化に応じた変圧器の運転台数を見直ししているか	○				
			受電端力率の管理 (350602)	受電端における力率は90パーセント以上(目標値100パーセント)を基準とし、進相コンデンサを運用する。	1	自動力率調整装置(がある場合)の設定・変更	○				
				進相コンデンサは、これを設置する設備の稼働又は停止に合わせて稼働又は停止させている。また、計測・記録を行い、適正な運転がされていることを確認している。	2	1.自動力率調整装置を設置 2.進相コンデンサーを設置		○			
					3	1.管理基準値を定めているか 2.計測・記録しているか	○				
					4	1.設備の稼働及び停止にコンデンサーの稼働及び停止を連動させる装置の設置		○			
			単相負荷の管理 (350603)	工場内各変電設備に配置された三相電源に単相負荷を接続させる場合について、管理基準を定め、電圧及び相電流の不均衡を防止する。	1	1.単相負荷の接続替え 2.単相負荷を接続時における規程の作成・変更	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
受変電設備、配電設備	抵抗等による電気の損失の防止	350600	負荷率の管理 (350604)	電気の使用を平準化するために電気使用設備の稼働について管理標準を設定する。	1	デマンド管理に係る規程を作成・変更しているか	○				
				電気使用設備の稼働状況等を調整することにより、工場等における電気の使用を平準化して最大電流を低減する。	2	1.昼間運転設備を夜間運転へ移行 2.各設備の運転時間の見直しによる負荷の平準化	○				
					3	1.蓄熱システムの採用		○			
			受変電設備及び配電設備の保全管理 (350605)	受変電設備及び配電設備は、良好な状態に維持するため、定期的な保守及び点検を行うための規程がある。	1	受変電設備及び配電設備の保全管理に係る規程の作成・変更	○				
				受変電設備及び配電設備の定期的な保守及び点検を実施する。	2	定期的な保守及び点検を実施しているか。	○				
			その他の電気使用設備に係る管理 (350606)	電気使用設備の種類、稼働状況及び容量に応じて、受変電設備及び配電設備の電圧、電流等の基準を設定して管理し、電気の損失を低減している。	1	電気使用設備の管理に係る規程の作成・変更	○				
			変圧器の負荷の統合 (350651)	複数の変圧器が軽負荷で同時に運転している場合には、変圧器の負荷を統合することにより、変圧器の損失が低減できることがある。	1	配線接続の見直しにより変圧器を負荷統合しているか	○				
			受変電設備及び配電設備に係るその他の削減対策 (350699)	変圧器について、設置後の使用年数を管理している。また、古い機械を新型の高効率の変圧器に更新した場合、効率の向上により変圧器の損失が低減できることがある。	1	高効率(低損失)変圧器の採用		○			
				その他、受変電設備及び配電設備について、変圧器損失や配電線損失などの抵抗等による電気の損失を低減するために必要な措置を行っている。	2	その他					

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ポンプ	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	360700	ポンプの運転管理 (360701)	<p>負荷側での垂れ流しや配管での漏水は、ポンプの所要電力を過剰に消費することになる。 節水に留意し、不要時には配管経路をバルブなどで閉止している。</p>	1	閉止弁の開閉操作により垂れ流しや漏水を防止しているか	○				
					2	閉止弁及び節水器具の設置		○			
				3	負荷側の設備等の稼働状況を把握し、ポンプの発停(オン・オフ)制御により流量を削減しているか	○					
				4	1.吐出弁の開度制御(開閉操作) 2.回転数制御の設定変更	○					
				5	3.羽根車の外径加工 4.羽根車の交換 5.回転数制御装置の導入 6.小容量ポンプへの取り替え 7.台数制御装置の導入		○				
				6	1.台数制御切替点の設定値の変更	○					
				7	2.使用水量に合わせた台数分割及び台数制御の実施 3.回転数制御装置の導入		○				
			<p>ポンプの要項を決めるとき、また、機種を選定する際、余裕を見込むため、実際に必要な流量と実運転点に大幅な違いが生じ、余剰な圧力、流量で運用されていることが少なくない。 ポンプの送水圧力及び流量については、負荷の状況にあわせて過大にならないように調整する。 常時吐出弁の開度を小さくし、ポンプの定格流量に対して小容量の運転を行っている場合は、ポンプ能力に余裕があるので、ポンプの改造等によりポンプ所用動力の低減が可能である。</p>								
			<p>負荷に変動があるときには、低流量時等において効率が低下する。台数制御、回転数制御などにより常に効率の良い点で運転を行っている。</p>								

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ポンプ	電気の動力、熱等への変換の合理化	360700	ポンプの保安全管理 (360702)	ポンプについて、流体の漏えいを防止し、流体を輸送する配管の抵抗を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	ポンプの保安全管理に係る規程を策定(見直し)しているか。	○				
				ポンプの定期的な保守及び点検を規定に基づき実施する。	2	定期的な保守及び点検の実施しているか。	○				
				配管系統及び機器等について定期的に保守及び点検を行い、漏水を防止する。	3	水漏れ箇所の修理により流量を削減しているか。	○				
				フィルター、ストレーナー等について、定期的な保守及び点検を行い、圧力損失を防止する。	4	フィルター及びストレーナー等の点検・清掃を実施しているか。	○				
			ポンプに係るその他の削減対策 (360799)	1	ポンプは、流量及び全揚程に経年変化等を考慮して機種を選定するが、現在の負荷の状況に比べ、圧力及び流量が大きい機種になっている場合には、ポンプの要項等を見直しすることによりポンプの所要動力を低減できる。	1	1.羽根車の外径加工による送水流量及び全揚程の低減 2.羽根車の交換による送水流量及び全揚程の低減 3.羽根車の段数の減少による全揚程の低減 4.回転数制御による送水流量及び全揚程の低減 5.小容量ポンプへの取り替え 6.低揚程ポンプへの取り替え	○			
			ポンプについて、設置後の使用年数を管理している。また、古い機械を新型の高効率ポンプに更新した場合、効率の向上により軸動力が低減できることがある。		2	高効率ポンプの更新	○				
			一定水圧の水を供給するために、ポンプ吐出側のバイパス管からの逃がし量で圧力を制御している場合には、逃がした量がポンプの所要電力の損失になる。回転数制御で圧力を制御すればバイパス管から逃がす水量が不要になり、ポンプ所要電力が低減できる。		3	回転数制御によるバイパス管の逃がし量の削減	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ポンプ	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	360700	ポンプに係るそ の他の削減対策 (360799)	<p>負荷側の設備が要求する圧力を保持できるように、ポンプ吐出側で圧力を制御してしまうと、低流量時には途中の配管圧損が小さくなるため、供給圧力が高くなり過ぎる。 このため、設備直近の圧力によりポンプの吐出圧力を制御すれば供給圧力を低くできるため、ポンプ所要動力が低減できる。</p>	4	負荷側設備における圧力センサーの設置及び同計測値に基づく回転数制御の採用		○			
				<p>日中の使用水量に対して夜間の使用水量が極端に少なくなる場合には、夜間用の小容量ポンプを設置するなどの効率の良い運転を行うことにより、ポンプの所要動力が低減できる。</p>	5	1.夜間用の小容量ポンプの設置 2.高架タンク、圧力タンクの設置によるポンプの間欠運転 3.可変速ポンプの導入		○			
				<p>部分的に高い水圧を必要とする場合、ブースターポンプを設置してメインポンプの圧力を下げることにより、ポンプの所要動力を低減できる。</p>	6	1.ブースターポンプの設置及びメインポンプの圧力低減		○			
				<p>高層階に送水する場合は、なるべく閉回路として高低差による送出圧の増加を防止することにより、ポンプの所要動力を低減できる。</p>	7	1.配管系統の閉回路化		○			
				<p>配管の経年劣化により配管抵抗が増加しているとき、配管の交換等により、ポンプの所要動力が低減できる。</p>	8	1.配管の更新・改造 2.配管の更新・改造及びポンプの更新・改造		○			
				<p>その他、ポンプについて、所要動力を低減するために必要な措置を行っている。</p>	9	その他					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ファン、ブロワー	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	360700	ファン・ブロアの 運転管理 (360702)	生産工程等の操業状況等に関係なく、ファン及びブロアの運転を行った場合、不要時には所要動力を過剰に消費することになる。 生産工程等の操業状況等を把握し、運転時間の低減、空転の防止を行う。	1	オン・オフ制御による風量の削減	○				
				送風量が変わる場合には、ファン及びブロアの運転効率を考慮した上で、負荷の状況に応じて適切に風量制御を行う。	2	1.ダンパの開度制御による風量の低減 2.吸込ベンチコントロールによる風量の低減 4.台数制御切替点の設定値の変更 6.回転数制御の設定変更による風量の低減	○				
					3	3.動翼可変ピッチ制御による風量の低減 5.台数制御装置の導入による風量の低減 7.回転数制御装置の導入による風量の低減		○			
				ファン・ブロアの 保安全管理 (360705)	ファン及びブロアについて、気体の漏えいを防止し、気体を輸送する配管の抵抗を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	ファン及びブロアの保安全管理に係る規程の作成・変更	○			
			ファン及びブロアの定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。		2	定期的な保守及び点検の実施	○				
			配管系統及び機器等について定期的に保守及び点検を行い、漏洩を防止する。		3	漏洩箇所の修理による風量の削減	○				
			ダクト、ケーシング、羽根車等について定期的に保守及び点検を行い、ダスト及びスケールの堆積を防止する。		4	スケール等の清掃	○				
			サクシオンフィルター等について、定期的な保守及び点検を行い、圧力損失を防止する。		5	サクシオンフィルタ等の点検・清掃	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
ファン、ブロー	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	360700	ファン及びブロー アーに係るその 他の削減対策 (360799)	送風量がほとんど一定の場合であって、計画時点で余裕をとりすぎていたり、又は減産等により風量を減らせるときには、負荷の状況に合わせて余剰風量を低減することにより、ポンプ及びブローアの所要動力の低減が可能である。	1	1.軸流ファン・翼角度の変更による風量低減	○				
					2	2.羽根車外径の切下げによる風量の低減 3.小容量羽根車への取替えによる風量の低減 4.Vプーリや歯車装置の取替えによる風量の低減 5.多段ブローアの段数の削減による風量の低減		○			
					3	高効率機種を更新		○			
					4	その他					
				ファン及びブローアについて、設置後の使用年数を管理している。また、古い機械を新型の高効率機種に更新した場合、効率の向上により軸動力が低減できることがある。							
				その他ファン及びブローアについて、所要動力を低減するために必要な措置を行っている							

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
コンプレッサー	電気の動力、熱等への変換の合理化	360700	コンプレッサーの 運転管理 (360703)	1	管理基準値の設定及び計測・記録	○					
				2	吐出圧の低減	○					
				3	1.生産工程等の使用端圧力の見直し及び吐出圧の低減 2.生産工程等の操業計画の見直しによる負荷の平準化及び吐出圧の低減		○				
				4	ノズルから圧縮空気を噴射している設備があるとき、噴射時期を適正に制御することにより、圧縮空気の噴射時間を短縮する。	○					
				5	電磁弁の設置及び噴射時期の自動制御による圧縮空気流量の削減		○				
				6	エアブローの適正管理による圧縮空気流量の削減	○					
				7	加工品の付着物除去、水洗後の水切り、乾燥及び冷却などにエアブローを用いる場合にあつては、吹き付け範囲、ブロー時間、ブロー圧力について適正な管理を行う。		○				
				8	生産工程等において、非操業等により圧縮空気の供給が完全に不要な系統があるときには、供給元弁の閉止を行っている。	○					
				9	非稼働エリアの供給元弁の自動開閉制御の導入による圧縮空気流量の削減		○				
				10	部分負荷運転時において、負荷の変動に追従してコンプレッサーの容量の調整を適正に行う。	○					
				11	1.インバータ制御コンプレッサーの導入 2.小容量のコンプレッサーの導入		○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
コンプレッサー	電気の動力、熱等への変換の合理化	360700	コンプレッサーの 運転管理 (360703)	コンプレッサーの除湿機について、効率管理の規程がある。	12	コンプレッサーの除湿機管理に係る規程の作成・変更	○				
				コンプレッサーの除湿機について、乾燥剤の水分量を露点センサーで検出して再生時間のコントロールを行う。	13	パージ設定の見直し	○				
					14	露点温度を基準としたパージ制御装置の導入		○			
			コンプレッサーの 吸気管理 (360704)	コンプレッサーの吸気抵抗が増加すると軸動力が増加する。コンプレッサー吸い込み口圧力を外気の圧力に比べ負圧にしないよう措置を実施する。	1	1.コンプレッサー室の吸気口の点検・清掃 2.吸気フィルターの点検・清掃	○				
					2	コンプレッサー室の吸気口の設置・改善		○			
			コンプレッサー等 の保安全管理 (360705)	コンプレッサー、空気配管系統及び圧縮空気使用機器等について、気体の漏えいを防止し、気体を輸送する配管の抵抗を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	1.コンプレッサーの保安全管理に係る規程の作成・変更 2.空気漏れ箇所の修理	○				
				コンプレッサーの定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	2	定期的な保守及び点検の実施	○				
				圧縮空気フィルター、アフタクーラ等について、定期的な保守及び点検を行い、圧力損失を防止する。	3	フィルタ及びアフタクーラ等の点検・清掃	○				
				フィルターの定期的な保守及び点検については、規定に基づきで実施する。	4	定期的な保守及び点検の実施	○				
				コンプレッサーの中間冷却器(インタークーラー)について、定期的に空気側及び水側の清掃を行い、冷却効率を維持する。	5	中間冷却器(インタークーラー)の清掃	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価			
									して いる ある	検討中	して いない ない	
コンプレッサー	電気の動力、熱等への変換の合理化	360700	コンプレッサー運転台数の自動制御等の導入 (360751)	生産工程等の使用端空気量の変動に対して、台数制御又は可変流量制御の採用により圧力変動幅を抑制し、吐出圧を必要最低圧力に設定する。	1	台数制御装置の導入及び吐出圧の低減	○					
					2	可変流量制御の導入及び吐出圧の低減		○				
					3	1.運転台数の設定・変更 2.台数制御プログラムの変更 3.台数制御装置の導入	○					
					4	小容量のコンプレッサーの導入		○				
				コンプレッサー吸気温度上昇の抑制 (360752)		コンプレッサーの吸込み空気温度が外気温度等と比較して過度に上昇する場合には、吸気温度上昇の抑制対策を実施する。	1	1.コンプレッサー室の窓の開放等による吸気温度の低減 2.コンプレッサー室の換気ファン等の設置による吸気温度の低減 3.外気の吸入管の設置による吸気温度の低減	○			
				コンプレッサーに係るその他の削減対策 (360799)		空気配管系統において、空気配管の圧力損失が過大であるとき、使用側の圧力低下を緩和するため、バイパス配管又はループ配管の設置等の措置を行う。	1	1.バイパス配管の増設又はループ配管の新設及び吐出圧の低減 2.配管径の変更及び吐出圧の低減		○		
					要求される圧力が複数ある場合、空気配管系統を高圧・低圧の系統に分離する。	2	高低圧配管の複数系統化及び吐出圧の低減		○			
					アクチュエータに高圧仕様を使用しているとき、低圧化に仕様を見直す。	3	使用側のアクチュエータの低圧化及び吐出圧の低減		○			
					高圧仕様のアクチュエータを使用しているときであって、低圧仕様に変更できない場合は、局所的な昇圧を行う。	4	局所的な昇圧及び吐出圧の低減		○			

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
コンプレッサー	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	360700	コンプレッサーに 係るその他の削減 対策 (360799)	<p>負荷として大きい設備の稼働等に伴う吐出圧の低下に対して、空気使用量を確保するため、エアータンクを設置する。</p>	1	1.エアータンク等の設置・増設による吐出圧の低減 2.操業状況の見直し及び吐出圧の低減		○			
				<p>冷却又はパージ等に用いる空気について、圧力が低く、風量が必要な用途にあっては、圧縮空気の使用からファン又はブロアの送気に転換する。</p>	2	ファン又はブロアの送気による圧縮空気流量の削減		○			
				<p>生産工程等の使用端圧力及び流量の変動に対して、適切な機種、容量及び台数にする。</p>	3	コンプレッサーの更新(機種、容量及び台数の見直し)		○			
				<p>コンプレッサーについて、設置後の使用年数を管理している。また、古い機械を新型機に更新した場合、大幅に軸動力が低減できることがある。</p>	4	コンプレッサーの更新(効率向上)		○			
				<p>無給油式のコンプレッサーを使用している場合であって、圧縮空気中に油分を含んでも問題にならないとき、給油式コンプレッサーを選択することにより比動力が改善できる。</p>	5	コンプレッサーの更新(給油式に変更)		○			
				<p>負荷の変動時において、軸動力が過大にならないように負荷の変動に追従してコンプレッサーの容量が調整できる。</p>	6	コンプレッサーの更新(容量調整方法の変更)		○			
				<p>その他、コンプレッサーについて、所要動力を低減するために必要な措置を行っている。</p>	7	その他					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の区分番号			対策番号	対策	基本対策	目標対策	自己評価		
									している ある	検討中	していない ない
電動力応用設備、電気加熱設備等	電気の動力、熱等への変換の合理化	370700	電動力応用設備の無負荷管理 (370701)	電動力応用設備は、電動機の空転による電気の損失を低減するため、始動電力量との関係を勘案して適切に運転し、不要時の停止を行う。	1	1.電動力応用設備の無負荷管理に係る規程の作成・変更 2.不要時に電動力応用設備の停止の徹底	○				
			電動機の運転管理 (370702)	複数の電動機を使用するときは、それぞれの電動機の適正な需要率が維持されるように、稼働台数の調整及び負荷の適正配分を行う。	1	1.電動機の運転管理に係る規程の作成・変更 2.負荷に応じた電動機の稼働台数の調整及び負荷の適正配分	○				
			誘導炉等の装てん方法管理 (370703)	誘導炉、アーク炉及び抵抗炉は、被加熱物の装てん方法を改善することにより、その熱効率を向上させる。	1	1.誘導炉等の装てん方法管理に係る規程の作成・変更 2.被加熱物の装てん方法の変更	○				
					2	設備改修の伴う被加熱物の装てん方法を改善		○			
			誘導炉等の効率管理 (370704)	誘導炉、アーク炉及び抵抗炉は、設備の構造、被加熱物の特性、加熱、熱処理等の前後の工程等に応じて、熱効率を向上させる管理標準を設定し、ヒートパターンを改善する。	1	1.誘導炉等の効率管理に係る規程の作成・変更 2.ヒートパターンの変更	○				
					2	設備改修又は工程変更等の伴うヒートパターンの変更		○			
			電解設備の電解効率管理 (370705)	電解設備は、適当な形状及び特性の電極を採用し、電極間距離、電解液の濃度等を適正な値とし、導体の接触抵抗等を低減することにより、電解効率を向上させる。	1	1.電解設備の電解効率管理に係る規程の作成・変更 2.電極間距離、電解液の濃度等の適正な管理	○				
電動力応用設備の保安全管理 (370706)	電動力応用設備は、負荷機械(電動機の負荷となる機械をいう。)、動力伝達部及び電動機における機械損失を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	電動力応用設備の保安全管理に係る規程の作成・変更	○							
		2	電動力応用設備の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。		○						

産業部門

区分名称			内容	点検内容							
大区分	中区分	対策の 区分番号		小区分	対策 番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
電動力応用設備、電気加熱設備等	電気の動力、熱等への変換の合理化	370700	電気加熱設備及び電解設備の保安全管理 (370707)	電気加熱設備及び電解設備は、配線の接続部分、開閉器の接触部分等における抵抗損失を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	電気加熱設備及び電解設備の保安全管理に係る規程の作成・変更	○				
				電気加熱設備及び電解設備の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	2	電気加熱設備及び電解設備の定期的な保守及び点検の実施	○				
			誘導炉等の断熱に係る保安全管理 (370708)	誘導炉、アーク炉及び抵抗炉は、断熱性能を良好な状態に維持するため、断熱工事等の熱の損失の防止のために講じた措置について、定期的に保守及び点検を行うための規程がある。	1	誘導炉等の断熱に係る保安全管理に係る規程の作成・変更	○				
				誘導炉、アーク炉及び抵抗炉の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	2	誘導炉、アーク炉及び抵抗炉の定期的な保守及び点検の実施	○				
			その他の電気の使用に係る管理 (370709)	その他の電気の使用に係る管理は、電動力応用設備、電気加熱設備等の電気使用設備ごとに、その電圧、電流等電気の損失を低減するために必要な事項について設備の運用に係る要領を作成して行っている。	1	電動力応用設備等の運用に係る要領の作成・変更	○				
			電動力応用設備、電気加熱設備等に係る削減対策 (370799)	その他、電動力応用設備、電気加熱設備等について、電圧、電流等電気の損失を低減するために必要な措置を行っている。	1	その他					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
照明設備	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	380700	照明設備の運用 管理 (380701)	照明設備は、日本工業規格Z9110照度基準等に規定するところの目的に応じた適正な照度レベルとするよう管理を行い、過剰な照明を防止している。 また、照度は、計測・記録を行い、適正に管理されていることを確認する。	1	1.照度の管理に係る規程の作成・変更 2.過剰照度の是正のためのランプ間引き	○				
				照度の定期的な計測及び記録については、規定に基づき実施する。	2	定期的な計測及び記録の実施	○				
				適宜消灯を行うことにより、過剰又は不要な照明をなくしている。	3	不要時消灯の徹底	○				
					4	1.各灯具ごとに点滅用プルスイッチの取付 2.照明スイッチ回路の細分化		○			
				屋光を利用することができる場所においては、日中は消灯する。	5	屋光利用によるランプ消灯の徹底	○				
				節電型蛍光ランプの採用する。 既設の照明器具が節電型ランプでない場合、ランプの交換時期に合わせ、適宜節電型ランプに交換する。	6	節電型ランプに交換	○				
			照明設備の保全 管理 (380702)	1	照明設備の保全管理に係る規程の作成・変更	○					
				2	1.定期的な保守及び点検の実施 2.照明器具及び光源の清掃の実施 3.適正時期の光源の交換	○					
			電子式安定器及び高周波点灯方式の蛍光ランプ等の導入 (380751)	既設の照明器具が磁気回路式安定器を用いている場合には、電子式安定器及び高周波点灯式の蛍光ランプを採用することにより、照明電力が低減できる。	1	電子式安定器及び高周波点灯式の蛍光ランプを採用	○				

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
照明設備	電気の動力、熱等へ の変換の合理化	380700	高輝度放電ランプ等効率の高い ランプの導入 (380752)	既存の照明器具が発光効率の低いランプである場合には、高輝度放電ランプ(高圧水銀ランプ、高圧ナトリウムランプ、メタルハライドランプ等発光効率に優れたランプ)を採用することにより、照明電力が低減できる。	1	高輝度放電ランプの採用	○				
				既設の照明器具が電球型の場合、高効率電球型蛍光ランプに交換する。	2	高効率電球型蛍光ランプに交換	○				
			照明設備に係る その他の削減対策 (380799)	昼光を利用することができる場所においては、日中は消灯又は明るさに応じて減光することにより照明電力が低減できる。	1	1.別回路の照明スイッチを設置 2.明るさセンサーによる調光装置又は自動消灯装置の採用		○			
				照明の点灯を施す区画ごとに、適宜調光による減光及び消灯を行うことにより、過剰な又は不要な点灯をなくす。	2	1.人感センサー等による在室検知制御の導入 2.計時装置(タイマー)や自動点滅装置の導入 3.タイムスケジュール制御の導入 4.初期照度補正機能つき照明器具の採用 5.局部照明の併用		○			
				天井面や壁面が汚れている場合、天井、壁、床などを反射率の良い材料で再塗装等を行うと、相互反射による間接的な照度(照明率)を高めることができるため、照明器具を減灯できることがある。	3	室内の天井、壁等の反射率の良い材料による再塗装または張替え		○			
				その他、照明設備について、照明電力を低減するために必要な措置を行っている。	4	その他					

産業部門

区分名称			小区分	内容	点検内容						
大区分	中区分	対策の 区分番号			対策番号	対策	基本 対策	目標 対策	自己評価		
									して いる ある	検討中	して いない ない
昇降機	電気の動力、熱等への変換の合理化	390700	昇降機の運転管理 (390701)	利用実態に応じて、夜間、休日や時間帯等に運転台数の調整を行っている。	1	1.運転台数のスケジュール管理	○				
					2	2.運転台数の制御装置の導入		○			
			昇降機の保全管理 (390702)	昇降機について、電動機の負荷となる機器、動力伝達部及び電動機の機械損失を低減するため、定期的に保守及び点検を行うための規程を定める。 昇降機の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	1	1.昇降機保全管理に係る規程の作成・変更	○				
					2	1.昇降機の定期的な保守及び点検の実施	○				
給湯設備	加熱及び冷却並びに伝熱の合理化	400200	給湯設備の効率管理 (400201)	給湯効率を向上させるため、給湯温度、給湯圧力、給湯時間等についての管理規定を定める。	1	1.給湯設備の運転管理に係る規程の作成・変更 2.給湯温度の変更(低下) 4.給湯圧力の変更(低減) 5.給湯期間・時間の変更(短縮)	○				
					給湯設備の保全管理 (400202)	給湯設備について、伝熱性能の低下を防止し、良好な状態を維持するため、熱交換器に付着したスケールの除去等、定期的に保守及び点検を行うための規程を定める。 給湯設備の定期的な保守及び点検については、規定に基づき実施する。	1	1.給湯設備保全管理に係る規程の作成・変更	○		
			2	1.給湯設備の定期的な保守及び点検の実施			○				
事務用機器	電気の動力、熱等への変換の合理化	410700	事務所機器の管理 (410701)	事務用機器は、不要時において適宜電源を切る措置を行う。	1	1.不要時電源を切る(待機電力の削減)	○				
			事務所用機器の 保全管理 (410702)	事務用機器について、定期的に保守及び点検を行う。	1	1.事務用機器の定期的な保守及び点検の実施	○				
					2	2.省エネルギー型機器の採用		○			